

第 616 回

日本小児科学会東京都地方会講話会

プロ グ ラ ム

日 時 平成27年2月14日(土) 午後2時00分

場 所 飯田橋レインボービル 7F 大会議室



演題の申し込みについて

- ホームページの演題申込用紙にご記入の上 e-mail で事務局宛送ってください。
- 抄録(160字以内)をおつけください。
- 原則として指定発言をつけてください。
- 演者、指定発言者は、ご発表の月末までに二次抄録(200字以内)をe-mailで事務局宛お送り下さい。(日本小児科学会誌掲載の為)

世話人

プログラム係 渕上 達夫
日本大学小児科 03(3293)1711
(FAX) 03(3292)2880

会場係 大塚 宜一
順天堂大学小児科 03(3813)3111
(FAX) 03(5800)0216

事務局 03(5388)7007
e-mail:jpstokyo-office@umin.ac.jp

第616回 日本小児科学会東京都地方会講話会演題

(1題6分、指定発言5分、追加討論3分以内、厳守のこと。○印演者)

第1グループ 14:00—14:30

座長 阿部百合子（日本大学小児科）

1) 心房中隔瘤を合併した先天性心房粗動の1例

○中村 麻里、野村 智章、畠中 大輔、草苅 優子、高橋 秀弘、中村 利彦、蒲原 孝
(武藏野赤十字病院新生児科)

症例は在胎35週3日の女児。母体切迫早産管理入院中に胎児頻脈、三尖弁逆流を認め、緊急帝王切開で出生した。出生後諸検査にて心房中隔瘤を合併した心房粗動と診断した。digitalizationを開始した後は再発を認めず、瘤は退縮傾向にあった。心房中隔瘤と心房粗動の合併は極めて稀であり、調べ得た範囲では本邦初の報告である。

2) 突然の哺乳力低下を主訴に発見された三心房心の1乳児例

○山田 啓迪、古川 岳史、中村明日香、重光 幸栄、原田 真菜、福永 英生、大槻 将弘、
高橋 健、秋元かつみ、稀代 雅彦、清水 俊明 (順天堂大学小児科)

症例は2か月女児。発育良好であったが、突然の哺乳不良を主訴に受診。多呼吸と軽度の心拡大を認め、心エコーで三心房心と診断。高度の肺うっ血を認め緊急手術を施行。三心房心は左房内隔壁により肺うっ血を来す稀な先天性心疾患であるが、心雜音等の特異的所見に乏しい。乳児における突然の哺乳不良や呼吸障害では、心疾患の鑑別が重要である。

3) 心停止蘇生後にICDを挿入したQT延長症候群の1例

○野口 優輔、松村 雄、五十嵐真帆、倉信 大、細川 奨、土井庄三郎
(東京医科歯科大学小児科)

症例は11歳男児。小学校1年の学校心臓検診でQT延長を指摘され近医で外来経過観察されていた。小学校5年時、学校で運動中に失神しAEDにて蘇生された。心電図ではQTc=583と著しい延長が認められ、心停止の既往があることからICDを挿入した。QT延長症候群におけるICD植え込みの適応について、文献的考察を加え報告する。

第2グループ 14:30—15:05

座長 大橋 祥子（東京都立大塚病院新生児科）

4) 新鮮凍結血漿投与により代謝性アルカローシスを呈した胎児水腫3例の検討

○金 隆根¹⁾、坂井みのり¹⁾、櫻本 真理²⁾、原 香織²⁾、木下 真里¹⁾、有光 威志¹⁾、
松崎 陽平¹⁾、池田 一成¹⁾、栗津 緑¹⁾、高橋 孝雄¹⁾
(慶應義塾大学小児科)¹⁾、(川崎市立川崎病院新生児内科)²⁾

大量輸血が代謝性アルカローシスをきたすことは知られているが新生児での報告は乏しい。胸水補正のため、胎児水腫3例（在胎30—34週、体重1495—2493g）に日齢0より連日新鮮凍結血漿（130—400ml/kg/day）を投与し、日齢2—6に代謝性アルカローシスをきたした。出生週数や基礎疾患により経過が異なることが示された。

5) ヒトパレコウイルスによる無呼吸を呈した新生児の1例

○前田 直則、有馬ふじ代、金子 絵名、三島 芳紀、清水真理子、旗生なおみ、浅井香奈子、佐藤利永子、土橋 隆俊、込山 修 (国立病院機構東京医療センター小児科)

哺乳力低下、顔色不良のため精査目的で入院した日齢14の男児。無呼吸を反復したが、支持療法で軽快。日齢18の頭部単純MRIで、側脳室周囲白質に拡散強調像で高信号が散見され、血清(リアルタイム)PCR検査によりヒトパレコウイルスが検出された。新生児の無呼吸の原因として考慮すべきウイルスと考えられた。

指定発言 宮入 烈 (国立成育医療研究センター感染症科)

6) MRIが診断に有用であった細菌性脳室炎の乳児例

○有里 裕生、小川 英輝、加久翔太郎、水口 浩一、永井 章、石黒 精、阪井 裕一 (国立成育医療研究センター 総合診療部)

既往のない2か月男児。発熱と痙攣で発症し、髄液から大腸菌が検出、大腸菌性髄膜炎と診断し、抗菌薬治療を3週間行った。治療終了前の頭部MRIで、側脳室後角に拡散強調像で高信号域を認めた。細菌性脳室炎と診断し、治療期間を6週間に延長、水頭症の合併なく退院した。本症例では細菌性脳室炎の診断に待機的MRI撮像が有用であった。

休憩 15:05—15:15

感染症だより 15:15—15:35 (講演:15分+質疑応答:5分)

座長 岩田 敏 (慶應義塾大学感染制御センター)

多屋 馨子 (国立感染症研究所感染症疫学センター)

教育講演 15:35—16:20 (講演:40分+質疑応答:5分)

座長 石黒 精 (国立成育医療研究センター)

インフルエンザ脳症を含む急性脳症の現状

河島 尚志 (東京医科大学小児科)

インフルエンザワクチンの定期接種中止後、小児を中心にインフルエンザ脳症が多発した。その後も、例年発症しており、pandemic H1N1 09が世界的に猛威を振るった際も、重症ウイルス性肺炎ばかりではなく多数の患者が発症した。本講演では、他のウイルス感染に伴う急性脳症を含め病態を中心に、近年の知見についてふれる。

第3グループ 16:20—16:55

座長 米沢 龍太 (日本大学小児科)

7) Test-negative designによるインフルエンザ様症状例におけるインフルエンザワクチンの影響の検討

○泉田 直己、萩原 温久、吉田 忠、千葉 昭典、白井 泰生、黒澤サト子、伊藤 圭子、細部 千晴、柴田 雄介、古平金次郎、諫訪美智子、牧田 郁夫、稻見 誠、和田 紀之、沼口 俊介 (東京小児科医会公衆衛生委員会)

インフルエンザワクチンの有用性の検証にインフルエンザ様症状例でワクチン接種歴と迅速診断結果を比較した。検査陽性701例、陰性87例で、陰性例を対照とし、陽性例のワクチン接種歴の有無によるオッズ比は0.27と有意の低値を示した。インフルエンザA、Bの型別でもオッズ比は有意な低値であった。

8) 水腎症に合併した小児膿腎症の1例

○佐藤 麻朝、大森 多恵、平井 聖子、西口 康介、玉木 久光、伊藤 昌弘、三澤 正弘
(東京都立墨東病院小児科)

9歳男児。発熱、腹痛、嘔吐で受診。膿尿と水腎を認めたが、結石などの閉塞起点は認めず、腎孟腎炎と腎孟尿管移行部狭窄症の疑いで入院となった。強い腹痛のためエコーを連日施行したところ、3病日にdebrisが出現、12病日に液面形成を認め、膿腎症と診断しドレナージ後軽快した。水腎症児が腎孟腎炎に罹患し強い疼痛を呈した際には本症を考慮する。

指定発言 岡崎 任晴(順天堂大学浦安病院小児外科)

9) 集中治療を要した百日咳感染による重症呼吸不全の1例

○生田 泰久、新津 健裕、本村 誠、齋藤 美香、中山 祐子、今井 一徳、齊藤 修、
清水 直樹
(東京都立小児総合医療センター集中治療科)

百日咳は、ワクチン体制が整備されているが、いまだに重症例が散見される。症例は4か月女児。前医にて急性呼吸不全に対して呼吸管理を開始したが悪化、ECMO導入。百日咳PCR陽性、ECMO管理の長期化が必須にて前医(名古屋)から当院までECMO搬送となり、現在も集中治療管理下にある。百日咳による重症例につき文献的考察を加え予防策を含めて呈示する。

第4グループ 16:55—17:25

座長 渡辺 直樹(板橋区医師会病院小児科)

10) 身体表現性障害として加療された1型糖尿病の1例

○松丸 重人、立川恵美子、衛藤 薫、金子 裕貴、河野 香、吉井 啓介、唐木 克二、
伊藤 康、永田 智
(東京女子医科大学小児科)

14歳の女子。腹痛が続き、便秘症として近医で加療されたが軽快せず、胃腸科に紹介されたが原因不明であった。倦怠感も訴え学校を休みがちとなり、抗不安薬を処方され、心療内科受診を勧められた。その数日後に頭痛、嘔気、食欲不振のため当院を受診した。血糖528mg/dl、尿ケトン3+であり、糖尿病ケトアシドーシスと診断し、治療を開始した。

11) アレルギー用ミルク使用中にバルプロ酸ナトリウム投与後の脱毛によりビオチン欠乏症が判明した1例

○日高 もえ、水野 葉子、太田さやか、下田木の実、高橋 長久、岩崎 博之、三牧 正和、
岡 明
(東京大学小児科)

超低出生体重児、出血後水頭症、てんかん、ミルクアレルギーにてアレルギー用ミルクのみ摂取していた1歳10か月女児。バルプロ酸ナトリウム(VPA)の投与を開始、增量したところ脱毛が出現した。食事性のビオチン欠乏に加えVPAの関与が疑われた。ビオチン投与で脱毛は改善した。文献的考察を加え、報告する。

12) ITPを合併したSjögren症候群の1例

○中原衣里菜、谷ヶ崎 博、金澤 剛二、大熊 啓嗣、下澤 克宜、平井麻衣子、陳 基明、
高橋 昌里
(日本大学小児科)

9歳女児。両足底の紫斑と血小板数減少($6000/\mu\text{l}$)を認め、ITPと診断した。IVIG 1g/kg投与で、血小板数上昇は得られなかった。IgG高値、ANA強陽性、SS-A、SS-B、RF高値から唾液腺生検を行い、Sjögren症候群と確定診断した。PSL 2mg/kg/day開始後、血小板数増加とIgG低下に伴い紫斑は改善した。現在(発症後10ヶ月)、CsA(2.5mg/kg/day)を併用しPSLを漸減中(0.25mg/kg/day)で、血小板数は12.8万/ μl である。

【運営委員会だより】

1. 平成 27 年 2 月講話会（第 616 回）のプログラム編成について日本大学小児科の渕上達夫先生より説明がありました。
2. 平成 26 年度の決算案が確認されました。
3. 平成 27 年度の予算案について審議されました。
4. 地方会会員のメーリングリストの作成に関して審議され、有事の際の必要性が確認されました。
5. 1 月の講話会出席者は 427 名、新入会 8 名、退会者 1 名、ベビーシッター利用者は 5 名でした。
6. 第 616 回講話会終了後に幹事会が開催されます。幹事の先生方はご参考下さい。

【演題の申し込みについてのお願い】

- ・ 動画が含まれる場合には、その旨を明示して下さい。動画使用の場合には、具体的な注意事項を、折り返し事務局よりご連絡いたします。
- ・ 原則として指定発言をつけて下さい。
- ・ 演題の締切は次のようにになります。

講話会開催月	演題締切	講話会開催月	演題締切	講話会開催月	演題締切
1月	前年 11 月 30 日	2月	前年 12 月 25 日	3月	1月 31 日
5月	2月 28 日	6月	4月 30 日	7月	5月 31 日
9月	6月 30 日	10月	8月 31 日	12月	9月 30 日

申込演題が 12 題以上になった場合、さらに 1 回先になることがありますのでご了承ください。

その場合、事務局よりご連絡します。

【演者の先生方へのお願い】

- ・ 一次抄録は 160 字以内に。また、二次抄録は日本小児科学会雑誌に掲載されますので規定の 200 字以内を厳守くださいようお願いいたします。（原稿はワード入力で e-mail にて事務局へお送り下さい。）
- ・ 出席した会員に発表の意味をより強く、明確に伝えるために、最後（または適切な時期）に Take Home Message（この発表から学ぶこと）を手短な一文で記したスライドを付け加えていただくようお願いいたします。

【会員登録事項の変更届についてのお願い】

- ・ 自宅、勤務先の住所（プログラム送付先）等の変更または、改姓があった場合は、速やかに東京都地方会事務局までご連絡下さい。
- ・ 退会される場合も必ずご連絡下さい。そのお届けがない場合は次年度も継続として年会費の請求を致します。

東京都地方会事務局 e-mail : jpstokyo-office@umin.ac.jp / FAX : 03 (5388) 5193

Presentationについて

発表は Computer Presentation (Windows) のみで受け付けます。Powerpoint 2000 以上で作成、Font 文字は Powerpoint 備え付けのみ。CD-R もしくは USB メモリーにて、第 1、2 グループ発表者は午後 1 時 30 分までに、第 3 グループ以降の発表者は午後 3 時までにスライド受付まで持参して下さい。機器操作は、当方で行います。あらかじめウイルス check をお願ひいたします。

動画について

動画の発表にはトラブルが多いため、下記の方針をご理解いただきますようお願い致します。

- ① 一般演題での動画の使用はできる限りお控えいただくようにお願い致します。
- ② 動画の使用が不可避と考えられる場合、ファイルのセーブ法などの注意事項がありますので、学会事務局に必ず事前にご連絡ください。
- ③ ②の場合にも、動画の映写にトラブルがあったときに備え、静止画像のみで構成された代替パワーポイントファイルをご用意下さい。当日、動画の映写が不可能と判断された場合には、代替パワーポイントファイルを用いて、時間通りに学会を進行させていただきますことをご了承下さい。

〈ベビーシッタールーム開設のお知らせ〉

乳幼児を同伴される方のために、ベビーシッタールームを開設します。利用ご希望の方は、利用日の 1 週間前までに事務局へお申し込み下さい。申し込みの際、お預けになるお子様の氏名・年齢・性別・および預けられる時間帯を伺います。利用当日、お子様が好きな食べもの・飲料・おもちゃ・着替え・おむつなどに名前を付けてご持参下さい。また申し込み受付後、問診票に記載していただきますことをご了承下さい。キャンセルされる場合は、3 日前までにご連絡をお願いします。なお費用は学会が負担いたします。

日本小児科学会東京都地方会事務局 TEL 03-5388-7007/FAX 03-5388-5193

月刊誌「小児科臨床」のご案内

月刊誌「小児科臨床」は、1948 年創刊以来一貫して 小児科学の投稿誌としてのスタンスを守り、若い小児科医の研究発表の場として活用されています。

弊誌は増刊号を含めて年間 13 号を発刊し、小児医療・小児保健に関わる多くの先生方から、日常の臨床に役立つ雑誌としてご好評頂いております。

小児科臨床
Japanese Journal of Pediatrics

増刊号 幼稚園保健2014



編集顧問

藤井良知・加藤精彦・早川浩

(第 67 卷 2014 年)

4 号 特集

小児感染症の予防 2014

編集委員

別所文雄・水口雅・岩田敏・松山健

増 刊

幼稚園保健 2014

発 行

月刊(毎月 20 日発行・土日祝は繰り下げ)

12号 特集

子どもと食 2014

定 價

普通号(年10回) 本体 2,600 円 + 税

(第 68 卷 2015 年)

1 号 ミニ特集

知っておきたい話題の感染症

特集号(年 2 回) 本体 4,700 円 + 税

2 号 ミニ特集

子どものスポーツ障害

増刊号(年 1 回) 本体 6,200 円 + 税

年間購読料 本体 41,600 円 + 税

小児科臨床
Japanese Journal of Pediatrics

特集 子どもと食2014

